NPO法人 遠野エコネット

エコネット通信

森を 川を この里の自然を 子ども達へつなげたい！

VOL.23

ホームページ：http://tono-econet.org/　　フェイスブックでも情報発信中！

広葉樹活用による地域再生シンポジウム

岐阜県飛騨地域視察レポート！

地域再生シンポジウム２０２１

11月16日(火)～17日(水)に岐阜県飛騨市に行ってきました。以前から、広葉樹の資源化について、飛騨地域が先進的な取り組みをしている話を聞いていたため、シンポジウムに合わせての視察に４名参加しました。

１日目はシンポジウムで、「持続可能な広葉樹施行」についての基調講演の後に、テーマ別のセッションがあり、「森づくり」では皆伐に頼らない持続可能な広葉樹林業をテーマに。「ものづくり」は地域づくりとの関係性をテーマに。「仕組みづくり」は広葉樹の価値を高めるために求められる流通がテーマ。最後の「広葉樹による地域再生」は広葉樹を活かすために地域に求められることをテーマに、実践者や研究者をゲストスピーカーとして行われました。それぞれ40分という短いセッションでしたが、飛騨地域での取り組みや、広葉樹活用については、まだまだ難しい面が大きいことも実感させられました。

地域再生シンポジウムのトークセッションでは、多方面から広葉樹活用の報告がされました。

エクスカーション

二日目はエクスカーションとして、２コースに分かれての現地での視察と検討会でした。Aコースの「飛騨市広葉樹のまちづくり探求」では、午前中に飛騨市役所で飛騨市が２０１４年から取り組む広葉樹のまちづくりについてのレクチャー後、広葉樹専門の西野製材所と飛騨市他２社の出資で設立された㈱「飛騨の森で熊は踊る」拠点となるＦａｂＣａｆｅ Ｈｉｄａを見学。午後は飛騨市森林組合が行っている広葉樹の森づくりを見学しました。

Ｂコースは飛騨市の隣にある高山市内で「飛騨の家具の現場めぐり」。最初に広葉樹の製材・乾燥を行っているカネモク木材。ここでは、通常はチップにしかならない小径木を積極的に仕入れ、大小様々な作り手の需要に応えています。次は、地産地消型の木工のものづくりをしているオークビレッジ。地域の木を仕入れてから、その個性に合わせたものづくりを実践しています。最後は、大規模な木工会社である飛騨産業。現在は９割が外国産材を利用していますが、今後は徐々に国産材にシフトしたいと考え、また、これまで利用してこなかった枝葉の利用に向けた研究も行っています。

広葉樹を専門に製材している西野製材所では、樹種と生産現場ごとに板が仕分けされています。

地域通貨Ｅｎｅｐｏ（エネポ）

シンポジウムに先立ち16日の午前中に、高山市で「木の駅」を実践しているＮＰＯ法人活エネルギーアカデミーを視察しました。高山市内には、間伐材などを出荷できる「木の駅」が７箇所あり、木材を出荷した人は「Ｅｎｅｐｏ」という高山市内協賛店(現在74店)で使用できる地域通貨をもらえます。木の駅に出荷された木材は、高山市が循環のトラックにて運搬し、家具メーカーやペレット工場などで活用されます。また、この地域通貨は、飛騨信用組合で等価交換も可能で、５００Ｅｎｅｐｏは５００円と交換も可能という全国的にみても画期的な仕組みを作り上げています。また、この活動には、高山市も買い取り価格に上乗せする形で補助をしています。

この視察内容は、紙面だけでは語り尽くせないため、1月15日17時から報告会を開催します。興味ある方は、ぜひご参加下さいませ。

活エネルギーアカデミー事務局の澤秀俊さんに、木の駅にて活動の状況を説明いただきました。

森のバザー・森のようちえん講演＆体験会　11/３(水・祝))

ヨーロッパで始まり、今や国内各地でも行われている未修学児対象の自然保育「森のようちえん」。当会でも、来年度からの定期的な開催に向けて、準備を進めています。10月13日には14名の方々と情報交換会を。また、10月31日には、スタッフ３家族の子ども達と一緒に、プレ森のようちえんを開催。また、10月17日と30日には、藪の草刈り整備に、のべ22人が汗を流し、11月３日のイベントを迎えました。

この日は快晴に恵まれ、約30名の親子に参加いただきました。先ずはじめに、宮城県のくりこま高原自然学校校長である塚原俊也氏に、「森のようちえんって、なに？」というテーマでの講演。塚原氏がデンマークやドイツの森のようちえんを訪問した際の写真を見せていただきながら、自然の中での保育の大切さや、その運営においての注意点などをお話しいただきました。その後、塚原氏と小さな子ども達ともに森へ出かけて、「ミニ森のようちえん体験会」。お父さんお母さんが遠くで見守る中、子ども達は森の中で、素敵な時間を過ごしました。また、この日は提供いただいた児童用の衣類やおもちゃなどのバザーも行いました。この売上は、森のようちえんの運営費として活用させていただきます。来春にもバザーは開催予定ですので、皆様の参加をお待ちしています。

バザー会場で、森のようちえんについて講演も行われました。

ミニ森のようちえんで、森の生きものに夢中になる子ども達。

森のデイキャンプ「おひさまのねっこ」　10/９(土)11/13(土)

10月のデイキャンプは12名の小学生が参加。午前中は森探検で森の中で遊び、午後は春の種まきから田植えを行ってきた田んぼで稲刈りをしました。草が繁茂していて、大変な作業でしたが、子ども達は元気に稲を刈り、はせ掛けを体験できました。また、稲刈りの後には、秘密基地づくりのための材料となるススキや木の枝集めをしました。11月のデイキャンプは10名の小学生が参加し、また、いつも遊んでいる森の管理者である森林管理署遠野支署長の山田さんが様子を見に来ていただきました。この日も、午前中は森探検に出かけ、ツルでのターザン遊びや木登り、川遊びなどをしてきました。午後には、10月に稲刈りして天日乾燥した稲を、足踏み脱穀機で脱穀の体験。その後には、秘密基地づくりも進めました。

10月のデイキャンプで、木登りを楽しむ子ども達。

猿ヶ石川魚類等モニタリング調査　10/29(金)

猿ヶ石川再生プロジェクトの活動として行っている７年目となる調査を、猿ヶ石川の支流などの５箇所で７名のスタッフが参加し行いました。昨年は激減した小友川では、少しだけ魚の数が戻ってきました。一方で、土淵町から流れる小烏瀬川での数が減っているのが気がかりです。10年間継続を目標に来年も同時期に行う予定ですので、興味がある方はお知らせ下さいませ。

魚類調査の様子。初参加者も童心に帰って楽しみました。

森楽倶楽部　11/６(土)

今年度４回目となる今回も、西和賀町からカタクリの会代表の瀬川強さん陽子さん夫妻を講師に、貞任高原の森にて、晩秋の森の自然観察を行いました。すっかりと葉を落とした森の中は、夏と違ってとても明るく、小さな子どもの参加もあって楽しく過ごせました。中には、珍しい「冬虫夏草(虫に菌が寄生)」やセミの大量死(ウイルス病か？)、まだ開いていないツチグリ(キノコ)を発見する参加者もありました。お昼には森の中で、鍋料理も楽しみました。

11月の森楽倶楽部では、小さな子どもの参加者もありました。

活動報告（10 月～ 11 月）

薪づくり倶楽部＆森の笠地蔵プロジェクト　10/ ３(日)11/ ７(日)

10月の薪づくり倶楽部には15名、11月には14名の参加と共に薪づくりを行いました。また、当会の新事業として、自力では薪を調達できなくなった高齢者宅に薪をプレゼントする「森の笠地蔵プロジェクト」もスタートし、11月の薪づくり倶楽部では、午前中に青笹町の一人暮らしのおばあちゃん宅へ、午後には附馬牛町の家へ、それぞれ軽トラック４台の薪を配達をしました。青笹町のお宅では、割れずに放置されていた丸太の薪割りも行い、附馬牛のお宅では古くなった煙突の交換も行ってきました。今後も、薪づくり倶楽部や間伐倶楽部に合わせて、薪づくりや間伐材の搬出を行います。このプロジェクトへの寄付金も募集中です。皆様のご協力をお願いします。

森の笠地蔵プロジェクトでは、煙突の掃除も行います。

炭っこ倶楽部(遠野北小４年＆緑峰高校２年)　11/19(金)

新型コロナウイルスの影響で、小中学校の炭焼き体験が中止となっていましたが、大分状況が改善したこともあり、遠野北小学校４年生60名を受け入れての炭焼き体験を行いました。この日は、遠野緑峰高校２年生もスタッフとして参加し、炭窯からの炭出し、出した炭を切って袋詰め、丸太をノコギリで輪切りにしてコースターづくり、そして薪割り体験を４グループに分かれて行いました。今回も講師には、北上市の千田淳氏（窯元・楽炭代表）を迎え、炭焼きの方法や炭の利用方法などの説明をいただきました。後日、小学生一人一人から感想文が寄せられ、楽しめた様子が伺えました。

炭窯から出した木炭をノコギリで切る北小学校の子ども達。

山仕事はじめの一歩(入門)講座　10/10(日)　11/14(日)

10月の講座参加者は13名で、松崎町のスギ実習林にて行いました。この日の実習メニューは、「造材」。間伐して倒した木の枝を払い、寸法に玉切りします。木の枝は一様ではなく、付いている場所もバラバラなため、なかなかの重労働。手先だけでチェーンソーを操作すると、事故の危険性もある作業となります。

11月の講座参加者は11名。松崎町のヒノキ実習林にて、枝打ちの仕方について実習しました。杉に比べ、ヒノキは枝が硬いため、枯れても落ちない枝が多いのが特徴。木を病虫害から守るためにも、この枝打ちは大切な作業です。枝打ちされた森は、とてもすっきりとしていて、達成感があるのも魅力です。

11 月の山仕事講座では、ヒノキ林で枝打ちの実習を行いました。

森業(もりわざ)倶楽部　10/24(日) 11/28(日)

10月の森業倶楽部は12名が参加し、６月に採集して乾燥させておいたヤマブドウのツルを使ってのツル細工を、宮守町の砂糖秀夫さんに指導いただきながら行いました。11月は木暮工房の菊池光典氏に指導いただきながら、木工作品づくりに取り組みました。

10 月の森業倶楽部では、ヤマブドウのツル細工を行いました。

間伐倶楽部　10/23(土)　11/27(土)

10月の間伐倶楽部は貞任高原でアカマツの間伐を５名の参加者と、11月は附馬牛町の実習林でカラマツの間伐を７名の参加者と共に行いました。また、11月は、午前中に間伐材の集材も全員で行い、山の斜面に散らばる丸太を、道路の近くまで運んでいただきました。これも、森の笠地蔵プロジェクトとして、薪の駅へ運び薪となります。

11 月の間伐倶楽部では、間伐材の集材も行いました。

主な活動の予定（12 月～１月）

月日	タイトル	内容	活動場所
12/1(水)	事務局会議	会計、活動報告、計画他	コモンズスペース
12/5(日)	薪づくり倶楽部/森の笠地蔵P	薪づくり、薪配達他	薪の駅、高齢者宅
12/9(木)	東北の豊かな森づくり打合せ	三浦秀一氏(東北芸工大)打合せ	オンライン会議
12/11(土)	森のデイキャンプ	秘密基地づくりとワラ細工	薬師岳山麓
12/12(日)	山の神様の年取り	鳥居奉納、他	遠野町実習林
12/17(金)	炭っこ倶楽部	緑峰高校飾り炭づくり	緑峰高校
12/18(土)	「水のラジオ」放送(代表千葉)	エコネット活動紹介	FM岩手(９時)
12/19(日)	山仕事はじめの一歩(入門)講座	間伐・集材実習	松崎実習林
12/20(月)	森のブランド化検討会	MORITOプロジェクト検討	㈱富川屋
12/22(水)	地域おこし協力隊交流会	協力隊との情報交換	コモンズスペース
12/25(土)	間伐倶楽部	間伐・集材体験	松崎実習林
12/26(日)	森業倶楽部	間伐材を利用した木工	薪の駅
1/８(土)	森のデイキャンプ	秘密基地づくりと新米ごはん	薬師岳山麓
1/９(日)	薪づくり倶楽部/森の笠地蔵P	薪づくり、薪配達他	薪の駅、高齢者宅
1/15(土)	2022年新年会	会員他との交流会	民宿りんどう
1/15,22(土)	「すっぴん土曜日」放送(代表千葉)	エコネットの活動紹介予定	IBCラジオ(９時30分頃)
1/16(日)	山仕事はじめの一歩(入門)講座	安全講習、森づくり座学	松崎地区センター
1/21(金)	炭っこ倶楽部	緑峰高校炭焼き体験	薪の駅
1/22(土)	間伐倶楽部	間伐体験	松崎実習林
1/23(日)	森業倶楽部	間伐材を利用した木工	薪の駅

みちのく薪びとまつり番外編in宮城・鳴子

東日本大震災の後に、地域自給エネルギーとして注目された「薪」に焦点をしぼり、東北の薪づくり団体の交流を目的として始まった「みちのく薪びとまつり」。

当会でも、第一回目の山形・三瀬地区から参加し、第２回目は遠野で主催。一昨年、青森・大鰐で第６回目となり、東北を一巡し、昨年は広島県芸北地区を研修。今年度も、新型コロナウイルスの影響もあり、各県のキーパーソンのみ参加による研修会として、宮城県鳴子で行われました。

代表の大場さんが、ドイツに行って直接購入したというチップボイラー。現地の価格は、日本の半値になるという話に驚かされました。

今回の会場は、第４回の宮城開催で主催したＮＰＯ法人しんりんの拠点となっている森。そこに、「サスティナビレッジ」というエコビレッジが建設されており、その状況を視察しました。

ここでの、コンセプトは「森を丸ごと資源化」。建築材で集合住宅をつくり、残材となる枝葉はチップボイラーで温熱と電気としてエネルギー化を。将来的には農園も整備し、完全自給型を目指しています。事業は途上ですが、連携していきたいと思います。

【編集後記】

お待たせしましたが、当会のホームページをリニューアルしました（上写真）。また、この機会に、ロゴマークも新たに制作しました。生命の巡りと多様性を表現したつもりです。新しくなったホームページについて、ご意見ご感想をお聞かせ下さいませ。（千葉）

発行:NPO法人遠野エコネット
令和３年12月７日発行
岩手県遠野市附馬牛町上附馬牛19-530
Tel&Fax　0198-64-2250
E-Mail:pahaya@tonotv.com